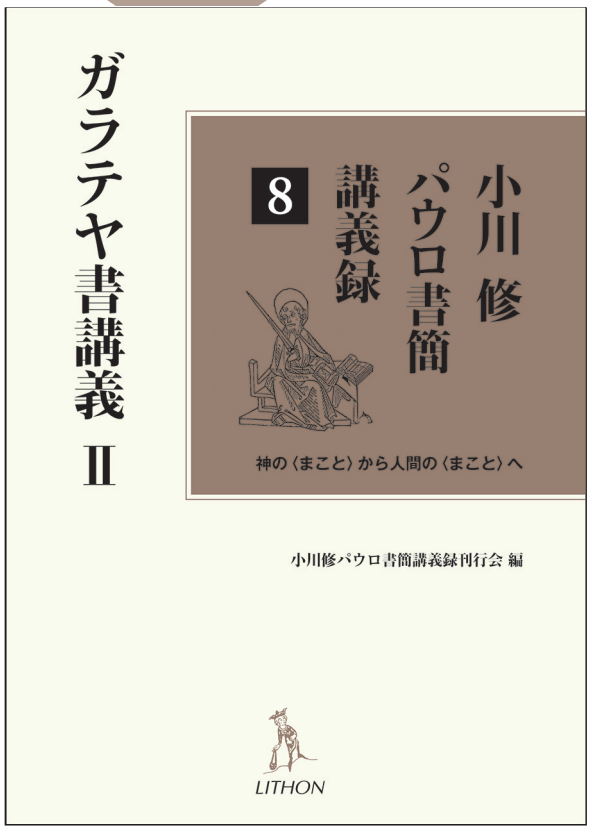
小川修パウロ書簡講義録　8

ガラテヤ書講義 Ⅱ

4月20日
発売予定



小川修パウロ書簡講義録刊行会 編　　● A5判上製　297頁　本体3,000円＋税

本講義録（全10巻）最終回配本！

本シリーズは、小川修先生が2007年4月から2010年1月に亘り、同志社大学神学部大学院で行った「パウロ書簡」の講義録である。本書はその第8巻、ガラテヤ書4～6章の講義を収録した。

本巻には「パウロ書簡講義録」に加え、先生の最後の講演「パウロは何を説いたのか」が掲載されている。これが人前での最後の講演となったが、一般信徒を前にしての講演ゆえにより平易な語りとなっている。教会内の学びの会などに用いられることが期待される内容である。巻末には、七人の「編集者の声」を収録した。各自の小川先生への感謝の思いをそれぞれの言葉で表現し、掲載した。　（「あとがき」より）

著者紹介　小川　修（おがわ　おさむ）
1940年、東京都豊島区南大塚に生まれる。
東京大学法学部卒業後、都市銀行に就職したが、神学・宗教哲学研鑽の道へ変更した。
立教大学大学院を経て米国ニューヨーク・ユニオン神学大学大学院修了後、ドイツの諸大学（エルランゲン、テュービンゲン、ミュンヘン）で神学・宗教哲学を専攻。
帰国後、実践女子大学、郡山女子大学で教鞭をとった後、聖徳大学（人文学部教授）が最後の勤務校となった。その他、日本ルーテル神学校・ルーテル学院大学で長年主として宗教哲学を講じ、同志社大学神学部大学院（2007～2010年）では、パウロ書簡の講義を行った。
論文は、ルーテル学院大学、聖徳大学などの紀要に多数収められている。2011年1月、帰天。

ISBN978-4-86376-091-2 C0016 ¥3000E